

DXのお悩み、1時間で解決

GovTech東京
区市町村DXグループ(スポット相談担当)

田中 亮
根本吉治
西村宜三

——スポット相談とは。

田中 区市町村の方から寄せられるDXやICTに関する悩み事を何でも受け止める窓口です。Logiformで相談を受け付け、東京都デジタルサービス局の区市町村DX協働課と連携し、制度的な相談から技術的な相談まで対応します。技術面で対応が必要な場合はガブテック東京(GTT)が人材を割り当てて対応します。

——どのような相談が多いですか。

田中 今は自治体情報システムの標準化に関するものが4分の1ぐらいで、それ以外では手続きのオンライン化の進め方やデジタルによる本人確認の仕方、DXを進めるにあたっての優先順位付けなど多岐にわたります。相談件数は多い時には月に20件前後、年間で150件前後となる見込みです。

田中 基本的には何が課題

ですが、会議はおおむね1時間で解決につなげます。

——1時間とは早いんですね。

田中 基本的是な何が課題

かを確認し、しっかり準備することです。過去に似たような相談もあるので、そのときの資料が使えるケースもありますし、インターネットから事例を探したりします。

根本 私は自治体情報システムの標準化を担当していますが、似たような部分でつまづいていても自治体ごとの事情が異なるので、事前会議で質問内容をきちんと確認するなど準備に時間をかけます。

——難しい部分は。

田中 まれに相談の範囲を超えているものもあります。例えば、作業を代行してほしいといった相談には対応が難しいことをお伝えし、別の方法を提案します。また、人材を採用したいという相談には、GovTech東京ハートナイズの担当者と連携して対応します。

根本 確かに相談内容が濃くなっている印象があります。標準化関連では自治体とベンダー間で契約する際の仕様のチェックや、ベンダーの見積もりを確認してほしいといったものもあるので、事前準備の時間もかかるようになってきているのが実態です。

——まだ活用していない自治体に向けてメッセージを。

田中 文字通り、DXに関するどんな相談でも受け付けます。GTTの豊富な人材を適材適所で用意していますので、幅広く相談していただければと思います。

——支援充実への課題は。

田中 積極的に活用していただいている自治体がある一方、そうでない自治体、特に島しょ部を含めた町村は職員自体が少なく、忙しすぎて相談する時間がない様子なので、どう連携を図っていくかが課題です。

西村 相談件数が伸びるにつれ、相談内容のレベルも上がっている印象です。もう少し足の長いサポートへの期待もあるので、どう対応していくかも検討課題です。

根本 自治体情報システム標準化をはじめ、自治体DXを成功させるためにも、ぜひスポット相談を使ってください。

14 GovTech東京 2年目の挑戦

西村 私は元々自治体にいましたが、相談内容は自治体職員として一度は経験したものが多く、つまづく部分はみんな同じだなと感じます。

——相談を受けた後はどのように対応しますか。

田中 漠然としていることも多いため、何が問題になっていて何が知りたいのかをヒ



たなか・りょう⑤＝1974年生まれ。保険会社のIT部門などを経て2023年4月に東京都のキャリア採用でICT職として入都し、同年9月にGTTに。前職からの習慣で毎年IT関連の資格を1～2つ取得する。休日は子どもと過ごすのが癒やしの時間。

にしむら・のりかず⑥＝1971年生まれ。山口県内の基礎自治体の職員で情報システムや総務、人事給与担当などを歴任した後、ネットワーク関連企業や公設病院を経て2023年9月にGTTに。東京に来てからは銭湯がリフレッシュ方法。

ねもと・よしはる⑦＝1967年生まれ。ベンダーを経て2023年4月に東京都のDX課長、24年4月にGTT。気分転換は最近再開したゴルフと歩くこと。1日1万歩を目標に、普段見過ごしている飲み屋などを見つけると入ってしまう。